

新潟港が受け入れ港となり、1959年から84年にかけて行われた北朝鮮への在日朝鮮人帰国事業。フランス人研究者のアドリアン・カルボネさんは、ヨーロッパでほとんど知られていない同事業をテーマに、博士論文

文を執筆した。北朝鮮に渡った日本人妻にスポットを当てた著書をまとめるため、本県を含む世界各地で調査を続ける。世界史の視点から見た帰国事業とは一。

(論説編集委員・森沢真理)

聞

■なぜ、在日朝鮮人帰国事業に興味を？

世界的に見て極めて珍しい事例だからです。冷戦の最中、資本主義圏の日本から社会主義圏の北朝鮮へ多くの人々が移住した。東ドイツから西ドイツへ逃げる人を阻止するため、「ベルリンの壁」が造られたのは1961年。その少し前に、世界の流れと全く逆の現象が新潟で始まった。日本人妻問題は、帰国事業の中で学術論文がほとんど書かれていない。だが近年、公開された関連文書を当事者の証言と照らし合わせることで、問題の全体像を描き出すことが可能になった。北朝鮮からの脱北者、新潟で帰国運動を支援した人や市民団体の責任者など、約20人の証言を得ることができた。

北朝鮮への帰国事業研究

アドリアン・カルボネさん

ベルギー・ルーバン大助教授
ブリュッセル在住・30歳



ADRIEN CARBONNET フランス出身。高校時代、興味のあった日本に留学。昨年9月、フランス国立東洋言語文化学院大学(INALCO)で政治学博士号取得後、現職。修士論文は北朝鮮による日本人拉致問題。今夏、北海道大学特任准教授として来日した。

世界的に珍しい移住例

うことで決行すれば「覆水盆に返らず」。韓国は怒るが、白紙で交渉を再開できます。■国際社会はどう見ているのでしょうか。帰国事業の実施に大きな役割を果たした赤十字国際委員会本部スイス・ジュネーブでは相当に激しい議論が行われた。それでも決断に踏み切った理由は、「祖国」への帰還を希望する在日朝鮮人がなくなかったから。在日朝鮮人の帰国は戦後処理の大きな節目の一つであり、冷戦構造を反映した事業だった。問題はその後です。北朝鮮になじめない帰国者の中には、監視対象となり、場合によっては強制収容所に入れられた人もいた。日本人妻の自米に発信する研究者はまだ30歳。将来が楽しみです。

インタビューを終えて

英仏独語に日本語、韓国語；多言語でリサーチできるのが強み。仏語の博士論文には本紙からの引用も登場する。

■帰国事業は岸信介内閣の下、59年2月の閣議了解で決まった。韓国は反発し、日韓国交正常化交渉は中断します。岸首相と船田中・自民党外務省次官は親韓派。帰国調査会長らは親韓派。58年11月に結成された在日朝鮮人帰国協力会の顧問には鳩山一郎元首相、浅沼稻次郎・社会党書記長、宮本顕治・共産党書記長が就いた。

これに安保改定反対運動が重なれば、社会秩序に与える影響は大きい。安保問題を円滑に処理するため、帰国の方針は「了解」し、反対派のガスを抜きをした。閣議了解の「附属文書」を読むと、その辺りの事情がうかがえる。日韓国交正常化交渉が手詰まり状態だったことも要因の一つでしょう。人道事業とい

うことで決行すれば「覆水盆に返らず」。韓国は怒るが、白紙で交渉を再開できます。■国際社会はどう見ているのでしょうか。帰国事業の実施に大きな役割を果たした赤十字国際委員会本部スイス・ジュネーブでは相当に激しい議論が行われた。それでも決断に踏み切った理由は、「祖国」への帰還を希望する在日朝鮮人がなくなかったから。在日朝鮮人の帰国は戦後処理の大きな節目の一つであり、冷戦構造を反映した事業だった。問題はその後です。北朝鮮になじめない帰国者の中には、監視対象となり、場合によっては強制収容所に入れられた人もいた。日本人妻の自米に発信する研究者はまだ30歳。将来が楽しみです。